

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を向上させ、(主体的な選択による学習とキャリア教育を通じて、将来の職業選択を視野に入れた、)自己の進路への自覚を深める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。また、「プログラミング教育」を教科「情報」から導入し、「全教科」に波及させる。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒が自ら学び、自ら考え、行動する意欲の促進を図る。</p>	<p>①多様な生徒の進路希望に対応し、学習効果の向上を目指した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>①インクルーシブの視点をもって全ての生徒にとって学びやすい学習環境を整える。</p> <p>①Ⅱ期プログラミング教育研究推進校として、Ⅰ期の取組を継続し、その成果を授業改善に取り入れる。</p> <p>②学校行事の企画や運営に関して生徒会や年次、クラス単位で生徒自ら企画・運営するように指導し生徒の社会性を育む。</p>	<p>①100分授業の中でより高い教育効果を上げることを目指した授業改善に努める。主体的、対話的で深い学びについて非常勤講師を含めた教員で情報共有し生徒主体の授業を実践する。また、ICTを効果的に活用し、「教材工夫」や「主体的な学習態度」の評価を向上させる。</p> <p>①全ての教科でプログラミング的な視点を生かした授業やキャリア教育を研究開発すると共に生徒にも課題解決の手法としてのプログラミング的な視点を意識させ、深い学びにつなげさせる。</p> <p>②学校行事や説明会を生徒が主体的に企画し、運営することができるように指導する。</p>	<p>①生徒主体の授業改善を目指した改善がなされ、主体的、対話的で深い学びについての手法やICTを取り入れる事ができたか。また全ての生徒にとって学びやすい学習環境への改善ができたか。</p> <p>①プログラミング的な手法を授業やキャリア教育に取り入れると共に生徒にも状況に応じて異なる問題解決の方法を意識させることができたか。</p> <p>②生徒が自主性・主体性を発揮し、学校行事を企画運営する取組が実施できたか。学校教育を活性化させる新たな取組を検討したか。</p>	<p>①100分授業の中で、複数の学習活動を組み合わせたり、ICT機器を活用したりするなど、様々な効果的な取り組みが進められた。また、教材や教え方を工夫するなどして、生徒の主体的、対話的な授業展開を目指す授業改善が推進された。</p> <p>①各教科でプログラミング的な視点を生かした授業を実施することができた。今年度は「やるべきことを順序立てて考える」ことを重点目標とし、ねらいや授業展開を意識した授業を工夫することができた。</p> <p>②学校行事や説明会を生徒が主体的に企画し、運営することができるように指導した結果、体育祭では競技の入れ替えや部活動リレーなどの新競技を実施できた。</p>	<p>①ICT機器の数が増え、機材は充実してきたが、今後は効果的な活用のために授業での活用方法等について研修会を開催する必要がある。できることを理解した上で、さらなる授業改善のために活用したい。すべての授業に生徒の主体的、対話的な深い学びの場面を持たせるため、互いの授業研究を深めたい。</p> <p>①プログラミング教育の5つの視点のうち「やるべきことを順序立てて考える」の目標のより一層の実現のための工夫と、他のプログラミング教育の視点の活用を踏まえた授業づくりを工夫していく必要がある。</p> <p>②自ら考え、自ら行動できるように、生徒会や各実行委員をより活性化させていく。</p>	<p>・ソフト面(教材開発、ペーパーワーク)での先生方の努力とハード面(機器活用)充実という点で効果がみられ評価できる。</p> <p>・今年度もプログラミング教育の視点を生かして研究授業を全教科で継続的に取組んだ。</p> <p>・生徒保健委員会の研究発表や課題研究発表について感心した。着実に力をつけている生徒達に期待している。</p> <p>・文化祭における生徒が生き生きとした瞳、協力し合う姿勢、人間を作る源と感じた。今後も頑張ってもらいたい。</p>	<p>①【成果】総合学科として多様な授業手法を取り入れる等、進路希望に対応し、学習効果の向上を目指した教育課程編成や様々な組織的な授業改善に積極的に取り組むことができた。</p> <p>①プログラミング教育を進める中で5つの視点を設け、当該教科以外の教科にもその思考の視点を踏まえた取組を広めた。</p> <p>【課題】引き続き「やるべきことを順序立てて考える」の目標実現のための授業改善を行うとともに、プログラミング教育の考え方を踏まえた授業事例として普及させる。</p> <p>②【成果】部活動加入率が向上し活性化したことで広報活動や地域貢献にも活用できた。</p> <p>【課題】3年後を見越した生徒活動の充実をさせたい。</p>	<p>①今後も総合的に学習研究グループが中心となり具体的な活動手法やICTの活用法などを提案しながら指導法等を研究し、改善を図りたい。</p> <p>①高校改革Ⅱ期目の推進校として更に具体的な取組計画を策定する。</p> <p>①プログラミング教育の視点を整理し更に目標に向かって学校全体で研究を深めたい。また学校の取組みを保護者や来校者の理解を深める目標掲示する看板を充実させる。</p> <p>②今後も生徒主体の学校行事に関して生徒会や年次会、クラス単位で生徒自ら企画・運営するように指導方法を工夫する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図るとともに学校規律を継続させる。</p>	<p>①魅力ある部活動となるよう支援し、加入率の向上や途中退部者の減少に努め、満足度を高める。</p> <p>②支援教育についての理解を深め、生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握、共有して支援し、課題の解決にあたる。</p>	<p>①部活動の活性化を目指し、新入生歓迎会等を実施する。また、地域や保護者向け部活動見学日を設定し向上させると共に本校への活動への理解と満足度を高めると共に発信し協力を得る。</p> <p>②年次会、企画会議、職員会議で生徒の情報を共有し、必要に応じて随時ケース会議を開くとともに、スクールカウンセラーや必要な相談機関を有効活用する。</p>	<p>①さまざまな取組を実施し、加入率を向上させ生徒・保護者の満足度が高まったか。地域等の教育力を活用できたか。</p> <p>②SCと連携体制を取り、ケース会議等の取組が支援に必要な生徒の指導に生かせ、課題解決につながったか。</p>	<p>①新たに部活動へ行こう週間を設定し、部活動へ参加する機会を充実させた。結果として部活動への参加率は向上した。</p> <p>②各年次や会議を通じて教職員間の連携が取れ支援が必要な生徒にはSC等と情報共有を行い課題解決に努めた。SC利用17回延べ63人(保護者6人教員3人利用)、ケース会議は延べ12回開かれた。</p>	<p>①部活動へ行こう週間をさらに発展させるのと同時に、再チャレンジの機会についても、充実させていく。</p> <p>②SCの利用状況から保護者や教員も悩みを抱えており、生徒の相談内容の背景には家庭の影響が大きく、家庭全体への支援が鍵となるため外部機関との連携を密にして個に応じた対応と教職員情報共有の強化が必要。</p>	<p>・部活動の活性化のため活躍生徒の表彰と再チャレンジ制度の工夫は評価したい。</p> <p>・SCと連携を深めるため保護者にも支援体制を敷き、外部機関との連携を密にした個に応じた対応は評価をしたい。</p>	<p>①【成果】部活動の活性化を図ったことで地域貢献、交流を深められ広報活動を充実させた。</p> <p>【課題】今後も部活動の活性化を継続的に図り、再編・統合時でも活性化を保ってほしい。</p> <p>②【成果】ケース会議やカウンセリングといった活発な活動を図った。</p> <p>【課題】SC、外部機関との連携体制の検討したい。</p>	<p>①さらに部活動の活性化を更に継続的に図り、再編・統合時でも生徒や保護者が理解しやすい活動体制を整える。</p> <p>②年次の教育相談担当者を中心に生活指導グループ、年次団、養護教諭などの相互の連携が重要である。また早い段階で情報交換や会議を設けるように努めなければならない。</p>

3	進路指導・支援	①生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。	① 学校外の教育力を活用し、キャリア発達に配慮した段階的、系統的な進路指導の充実を図る。 ② 学習支援・進路支援の環境を整備する。	①インターンシップや上級学校や企業、外部機関との連携を深め、効果的な進路ガイダンスを実施する。 ①生徒の自己理解や進路意識を促進するために面談等を適切に実施する。 ②学習環境の整備、eポートフォリオ（活動報告書）の検討、学習方法の指導などを行う。	①効果的な進路ガイダンスや面談・指導を実施することができたか。 ②学習環境の整備、学習方法の指導などを検討し解決に向けて実施したか。	①進路適性検査、学力テストの振り返り講演会、公務員対策講座、出前授業等、各種ガイダンス・面談を外部機関とも連携して、実施することができた。 ②長期休業中の補習・講習を充実できたが学習方法指導に関してはガイダンスの中であまり多く扱う事ができなかった。	①②生徒の希望進路を実現できるよう、更なる効果的なガイダンスや面談、学習面でのバックアップ体制を充実させる。	・長期休業中の補習・講習の充実を図るため外部機関とも積極的に連携を深めた取組みは評価する。 ・eポートフォリオの充実と取組みを図ってほしい。	①【成果】四年制大学を希望する生徒 120名中 96名が合格。日ごろの指導の成果により進路未定者を少なくすることができたと考えられる。 【課題】新調査書、新入試制度、eポートフォリオ等の対応。	①四大受験の仕方や学習の仕方を指導し、3年次生対象の一般受験のガイダンスを強化し、進路実現につなげたい。 ②校内のWi-Fi環境を充実させ満足度、課題やアンケート等の指標方法に活用する。
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 ②「プログラミング教育研究推進校」として、研究開発に取り組む。	①地域や外部の教育力を活用し、また学校側からも発信し地域に信頼される学校づくりを進める。 ②Ⅱ期プログラミング教育研究推進校として学校全体の教育課程においてⅠ期の研究の継続と定着を図る。	①授業や部活動、委員会活動など様々な場面をとらえて地域貢献活動や幼保小中学校との連携・積極的な交流を通じて、生徒の自己肯定感を高め、地域からの信頼を得る。 ②プログラミング教育研究推進に係る民間企業、大学、専門学校との協働研究や地域等への発信等の取組を継続・発展させる。	①地域の教育力を効果的に活用することができたか。また学校や地域へ貢献すると共に本校の教育内容を発信し理解を得ることができたか。 ②プログラミング教育研究推進を通して外部機関との協働研究の成果を外部に情報発信したか。地域との共同事業を実施したか。	①就業体験等校外活動に21名参加した。授業や部活動、委員会活動での活動が地域へ貢献することができた。学校の教育内容を発信できた。 ②1月22日に神奈川工科大学より金井教授をお招きしてプログラミング教育研修会を行い、全職員がロボットプログラミングを体験した。また、研究の成果を情報科の教育課程説明会で事例発表の形で発信した。	①できるだけ多くの生徒が活動に参加できるよう努力する。また、生徒数減のため来年度以降のあり方について検討する必要がある。 ②学校外の機関と協働研究を継続するために、今後も校内研修を企画していく。また、校内での取組みを外部へ発信させる取組みを工夫していく必要がある。	・地域との繋がりは大変だが個々の生徒が地域に戻った時に「地域のために何か！」貢献の気持ちを育んで欲しい。 ・限られた期間ではあるが大沢地区の各行事への積極的な参加を期待している。	①【成果】学校外活動、ボランティア活動等、連携先や参加生徒数も増え、積極的に取組んでいる。 【課題】地域との協働連携において今後も積極的に地域に出ていくと共に地域の教育力を学校に取組む体制づくりを図る。 ②【成果】プログラミング教育の1つの視点を目標として職員全体で取組むことができた。 【課題】他の大学や研究機関との連携を深める。	①生徒主体の取組みを更に増やし、部活動の活用などを中心に考え、取組めるよう工夫に努めたい。 ②プログラミング教育研究推進校として学校外の機関との協働研究を継続するため、講師を招いた校内研修を企画するなど、全職員が研究に参加する体制を工夫する必要がある。
5	学校管理 学校運営	①すべての職員が県立高校改革の実施を踏まえ、変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校体制を構築する。	①Ⅱ期県立高校改革「再編・統合」事業を円滑に進めると共に教育課程の着実な遂行と生徒の活動を支援する。 ①県民から信頼される学校を目指し、事故・不祥事防止ゼロを達成に向けて、職員の自己管理能力を育成する。	①教育課程の遂行と「再編・統合」による課題を整理し、計画及び対応する。 ①グループや総括教諭を主体とした事故防止研修等の校内伝達講習のしくみを利用し教職員一人ひとりの内面化を図ると共に研修内容を定着させる。	①教育課程やグループ業務・地域や他の教育機関との連携等の課題を分析し、対応計画を検討できたか。 ①総括教諭以外の教諭も伝達者とした事故防止研修を実施し、教職員一人ひとりの内面化を図ることができたか。研修内容をファイリング保存したか。 ②個人面談を行い実効性の高い不祥事防止に取り組むことができたか。	①再編・統合準備委員会とは別に校内に再編・統合プロジェクトチームを立ち上げ本年度の重点プロジェクトを考え、見直し、課題への対応を図った。また、必要に応じて学校運営協議会、PTA、同窓会に報告し意見聴取をした。 ①事故防止研修会を企画・職員会議、職員打合せ会等で管理職と総括教諭で連携を図り日頃のグループ業務から自己管理能力の意識が高まるように取組んだ。	①諸課題の整理、方向性、期限等の設定を検討し、具体的な個々の検討業務を現有的グループや教科にお願いをする。また、関係者の意見も参考にする。 ①年度当初に全職員向けに事故防止研修会資料やファイルを作成し、不祥事防止に対する意識の統一を図る必要がある。	・再編・統合に向けて地域で協力する行事等があれば協力は惜しまない。 ・県民から信頼される事故・不祥事防止ゼロを達成に向けて、校内研修の他、日頃のグループ業務から実効性の高い研修を企画してほしい。	①【成果】HPを県立高校統一CMS形式に整え情報発信の環境を整えた。 【課題】再編・統合に向かって、教育活動の成果や業務の進捗状況を可能な限り掲載したい。 ①【成果】大きな事故無く取組めた。個人情報等の管理について手続き等を周知・徹底することで職員の意識を高めさせることができた。 【課題】若手職員が多いため意識の統一や共有を図る。	①課題研究、地域活動の充実、生徒の主体性を大切にした教育活動を活性化するため、人材育成も図り、継続して業務がなされるように取組みたい。 ①全教職員を対象とする研修の他に、グループ討議や個人面談等を増やすことでより実効性が期待できたが、働き方改革を意識した取組みを含めた、時間的な制約をどう克服するかが、次年度の改善点である。